

(2) 東北



東北地域では、景気は東日本大震災の影響により、依然として厳しい状況にあるものの、持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は東日本大震災の影響が残るものの、持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は東日本大震災の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

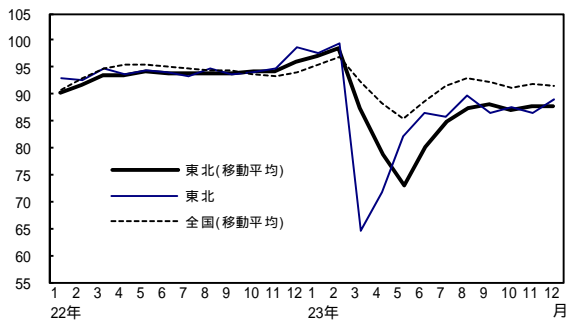
	前回(平成23年11月)	今回(平成24年2月)	
住宅建設	増加	大幅に減少	
雇用情勢	持ち直しの動き	持ち直し	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は東日本大震災の影響が残るものの、持ち直している。

電子部品・デバイスは、タイの洪水の影響により、代替生産があったことなどから、増加している。食料品・たばこは、東日本大震災からビール製造工場の立ち直りがあることなどから、増加している。一般機械は、企業の設備投資抑制の動きや円高の影響などから、減少している。情報通信機械は、タイの洪水の影響によりカーナビゲーションシステムの製造部品の供給が滞ったことなどから、減少している。化学工業は、前期に生産した医薬品の反動減により、減少している。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	17.9	3.9	5.4	1.3	38.4
食料品・たばこ	11.8	6.2	8.1	14.6	6.7
一般機械	10.1	2.0	9.6	10.7	2.9
情報通信機械	9.6	3.7	6.2	11.0	19.0
化学	7.0	12.4	10.3	10.4	15.5
鉱工業	100.0	8.9	0.5	0.4	7.0

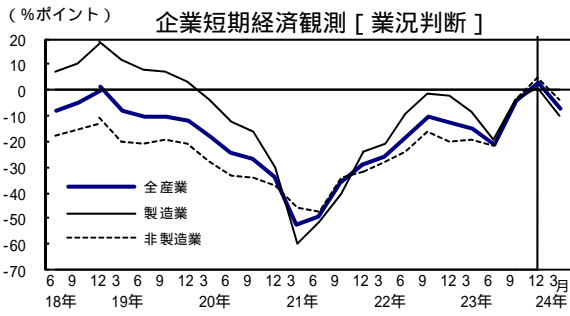
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10~12月期は速報値。

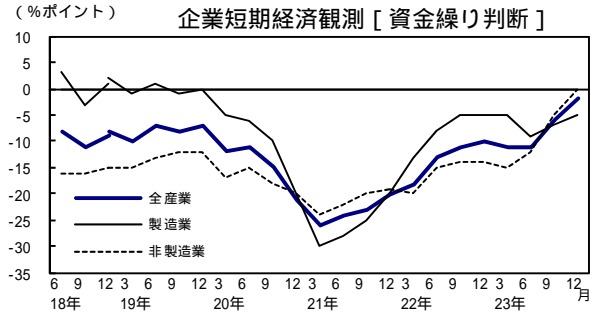
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

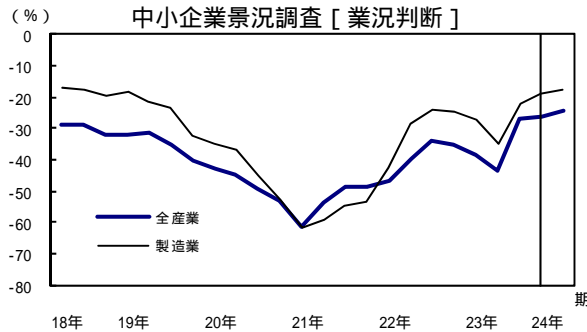
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

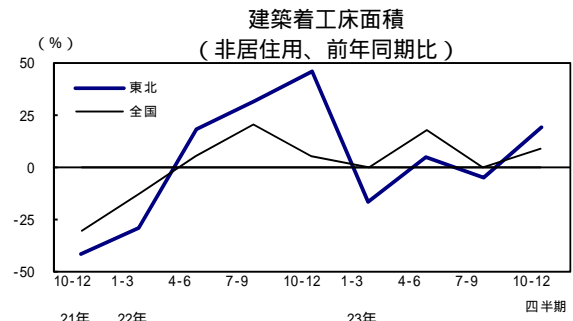
「荷主も円高等による輸入品の市況圧迫を受け、販売が厳しい状況にあり、東日本大震災の復旧後の生産計画通りになるのかという不安要素がある(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	15.1	8.1 (6.7)
製造業	16.7	11.6 (7.9)
非製造業	12.0	1.6 (4.1)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で5.4%増、前期比で0.5%増となった。

百貨店は、10月は、紳士、婦人とも秋冬物衣料が好調だったことなどから、前年を上回った。

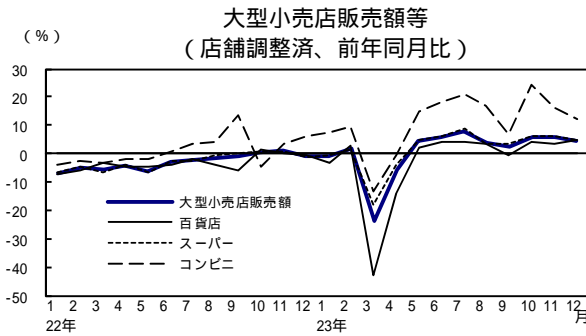
11月は、身の回り品のハンドバッグ、婦人靴が好調だったことなどから、前年を上回った。

12月は、紳士、婦人とも冬物衣料が好調だったほか、家庭用品の食器などが好調だったことなどから前年を上回った。

スーパーは、主力の飲食品では、加工食品などが好調で前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「スマートフォン、タブレット端末の導入が加速している(通信会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	7.6	1.6	4.9	5.4
百貨店(*1)	16.0	2.7	2.5	4.2
スーパー(*1)	5.4	2.6	5.4	5.8
大型小売店(*2)	7.6	1.0	2.7	3.8
(季節調整値)(*3)	(7.8)	(7.0)	(4.6)	(0.5)
乗用車(*4)	33.3	19.6	7.8	35.6
(季節調整値)(*4)	(6.1)	(11.8)	(24.6)	(3.0)

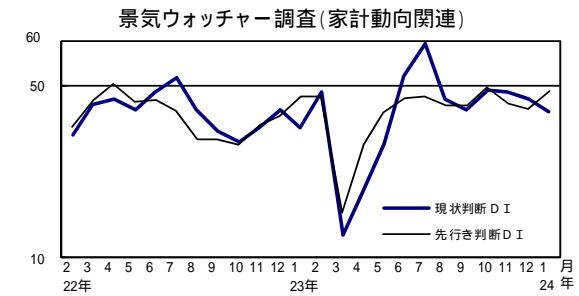
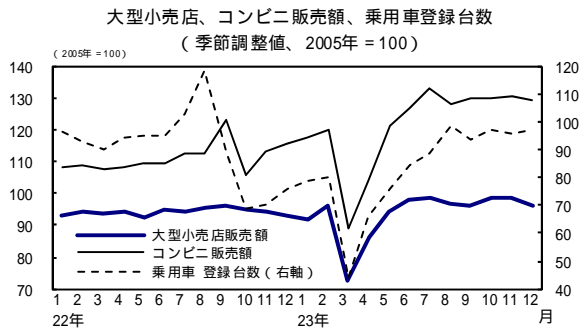
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

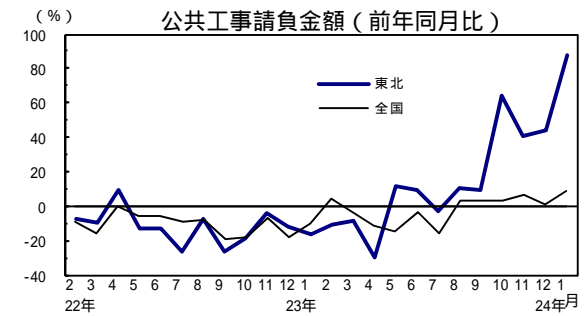
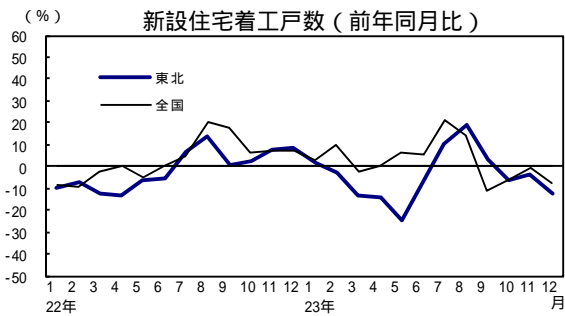
(上段:前年同期比、下段:前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

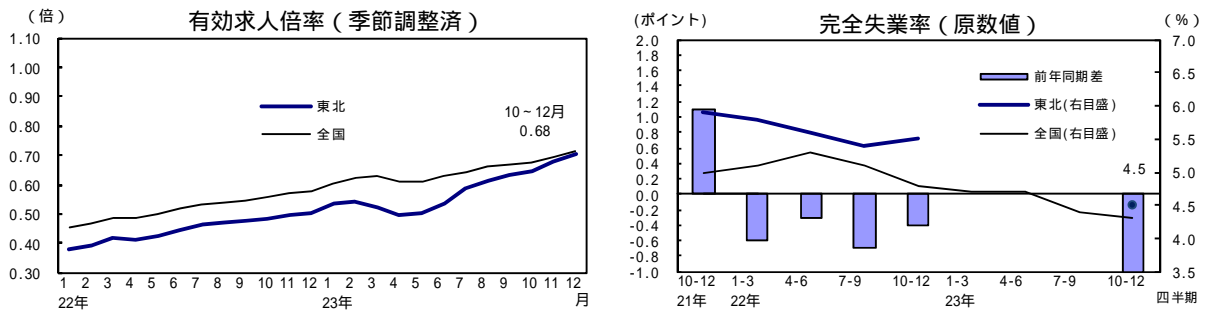
持家が前年を上回ったものの、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は東日本大震災の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



（備考）23年1-3月期～7-9月期の東北地域の完全失業率のデータは未公表。（23年10-12月期は4.5%）

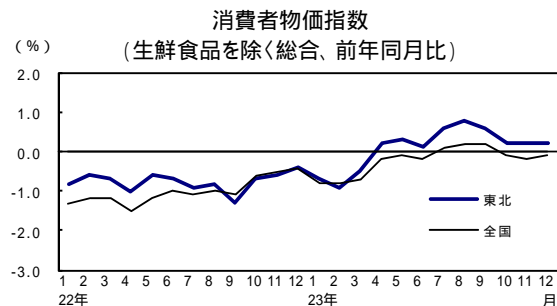
景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]
「建築、住宅業界の募集に加え、中古車及びタイヤホイールなど自動車用品販売等の業種で求人が好調である（人材派遣会社）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は大幅に減少しており、負債総額は減少している。

- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	24年1月
倒産件数	157	156	160	121	36
(前年比)	14.7	13.3	11.6	37.6	23.4
負債総額	581	342	741	543	177
(前年比)	40.1	14.0	35.9	7.0	106.9



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・3か月前と変わらず、復興特需が続いている。今月は曜日の並びが良くなかったが、宴会、宿泊、料飲施設共に前年を上回っている（都市型ホテル）。

<先行き>

- ・気温低下に伴う冬物需要という実需に加え、インナー、ボトムを中心に春物商材が立ち上がっており、次の季節商材の需要へとスムーズに切替わっていくことが予想できる（衣料品専門店）。

